

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立小鮎中 学校

校長名 大貫 博

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

学校教育目標

学校経営の方針

自ら考え、判断し、適切に表現できる力を伸ばす

○すべての教育活動が生徒のキャリア形成に付与し、一人一人が「生きる力」を身に付け、社会人として自立できる資質の礎づくりとなる学校経営をめざす

今年度の重点目標

- 「学ぶ力」を高める教育活動
- 「安全・安心」に学べる場づくり
- 地域との連携を深める教育活動

評価項目・指標等	基本	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
<p>○「学ぶ力」を高める教育活動 〔評価項目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しいと感じている。 ・生徒が主体的に取り組む場面や機会があると感じている。 ・好きな授業や楽しいと感じる授業がある。 ・先生が、GIGAスクール端末や電子黒板等を使うことによって、学びを深めることができた。 <p>〔指標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> *思考することや表現活動を意識した授業・行事の充実 ・若鮎祭文化部門における表現活動の「全教科」成果発表 *課題解決・探究活動を意識した総合的な学習の時間の充実 ・「地域を知る、地域に学ぶ」SDGsに関する調査学習 	<p>1 ・ 2 ・ 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上を図るために、毎学期、授業研究に取り組んだ。 ・生徒の学習意欲を高めるために、定期試験前に年間6日間、学習会を実施した。 ・若鮎祭文化部門では、表現活動の一環として全教科において授業の成果物を展示し、保護者や地域にも公開した。 ・総合的な学習の時間では、地域学習とSDGsを関連付け、探究学習として自ら調査したいテーマを設定した。調査したことを整理・分析し、考察したことを互いに発表しあい、全体共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究では、研究テーマに沿った授業を全職員で参観し、ICTの効果的な活用法や生徒の学習意欲を高めるための具体的な方策について議論し、それぞれの授業に生かすことができた。一方、研究テーマは、学校経営方針(グランドデザイン)との整合性や、研究の仮説が限定されてしまうとの意見もあった。 ・定期試験前の学習会では、どの学年も多くの生徒が参加し、生徒の学習意欲向上につなげることができた。学校評価においても、生徒や保護者から高評価であった。 ・若鮎祭文化部門では、全教科で授業の成果物を展示した。全教科による展示は3年目ということもあり、昨年度より計画的に取り組むことはできたが、展示の仕方や展示期間などについては改善の余地がある。 ・総合的な学習の時間では、自ら設定したテーマについて情報を収集し、考察したことを周囲に表現することで学び続ける力を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上を図るために、校内研究を中心に授業改善できるようにする。 ・本校の生徒の実態を踏まえ、生徒に身につけさせたい資質・能力を整理し、研究テーマを設定していく。 ・学校評価を受け、今年度同様に定期試験前の学習会を年間6日間実施できるように計画している。 ・若鮎祭文化部門では、全教科による授業の成果物の展示を次年度も引き続き行う。 ・総合的な学習の時間では、2年生までは今年度同様に地域学習とSDGsを関連付けて課題探究学習を行うが、3年生では、2年間の研究成果を踏まえ、自らが興味をもった事柄について研究や発表を行っていく。

<p>○「安全・安心」に学べる場づくり 〔評価項目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても気持ちよくあいさつができています。 ・安心(いじめや暴力等のない)な学校生活を送ることができている。 ・道徳の授業を通して、ものの見方や考え方が広まったり深まったりしている。 ・小鮎中学校は、生徒や保護者の相談に親身になって対応することができている。 <p>〔指標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> *あいさつ活動の充実 ・生徒と教員との協働活動による <p>「あいさつを大切にする」学校づくり運動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> *人権教育・道徳教育の充実 ・人権週間を中心とした人権を考える授業の充実。道徳では「自分や他者を大切にする」指導項目の重点化 *教育資源を活用した相談活動の充実 ・スクールカウンセラーやこころスマイル支援員、サポートルーム、生活アンケートなど教育相談の一層の充実 	<p>2 ・</p> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる学校を目指し、教員から率先して生徒に声をかけることや、授業時のあいさつがしっかりできるように指導することなどの取組を行った。 ・登下校時を中心に、生徒が主体的にあいさつ運動に取り組む機会を設定し、年間通じて継続的に取り組むことができた。 ・年間5回、全校生徒に生活アンケートを行い、生徒理解に努めるとともに、必要に応じて教育相談を実施した。 ・人権週間では、生徒の人権感覚が高まる取組を各専門委員会と考え、全校に対して啓発活動を行ったり、人権集会で人権作文を朗読したりする取組を行い、あらためて人権について、考える機会にすることができた。 ・道徳の授業では、ローテーション道徳を実施し、教員同士で積極的に授業を見合い、授業力向上に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の結果から、8割を超える生徒があいさつができていると回答しているが、校内の様子からは十分であるとは言えないため、生徒を巻き込んで様々な活動を行ってきた。学校運営協議会の中で、地域の方からは中学生のあいさつについて肯定的な意見をいただくことができたが、自ら進んであいさつができるところまでには至っていないのが課題である。 ・あいさつについては、小中一貫教育の大きなテーマの一つであり、小学校と隣接している市内唯一の中学校であるため、小学生と一緒にあいさつ運動ができないかを一年間かけて検討してきた。 ・学期の始めや行事の後に生活アンケートを実施し、生活アンケートに記述された生徒の悩みや不安などの情報を早い段階でキャッチして迅速に対応できる体制をとり、トラブル等を早期発見、早期解決できるように努めた。また、生徒にとって相談しやすい環境を整えるために、担任以外の教員を希望することもでき、実際希望した生徒も数名いた。 ・人権週間では、昼休みにポッチャの体験を行ったり、美化委員とボランティア生徒でパンジーの植え付けを行ったりと、各委員会ができることを考えて取り組むことができた。 ・道徳の授業については、学校評価の結果から、「ものの見方や考え方が深まった」と回答した生徒が8割を超えたが、そのうち、「あてはまる」と回答した生徒は3割にとどまった。授業力向上のために、ローテーション道徳を行ったが、回数も少なく、その効果も限定的だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動は、小学生と一緒にあいさつ運動ができるように、学区の三校連役員会や教務部会の中で話を進めていく。 ・生徒が安心して学校生活を送ることができるようするために、生活アンケートの他に、生活ノートを毎週回収し、生徒の悩みや不安に迅速に対応できるように取り組んでいく。 ・生徒が相談しやすい環境を整えるために、教育相談の充実に加え、サポートや心の教室など校内の生徒の居場所づくりをさらに強化していく。また、スクールカウンセラーや特別支援学校による巡回相談など、専門的な視点からいただいたアドバイスをもとに、生徒理解・生徒支援により一層つなげていく。 ・道徳の授業では、校内研究と関連付けることで全教員であらためて道徳の授業について考える機会を設け、授業力向上につなげられるようにする。
---	--	---	---

<p>○地域との連携を深める教育活動 〔評価項目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの配付物(たよりや通知)を持ち帰り、お家の人に渡している。 ・災害時に備えて、避難場所や連絡方法を家族で話し合っている。 <p>〔指標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> *地域学校協働活動推進員との協働活動の充実 ・校内環境整備、講師の調整 	<p>2 ・</p> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動推進員と協力して本校を卒業した高校生を講師として招き、「卒業生から学ぶ」と題して、中学2,3年生が6校の高校の中から自分が希望する学校を3校選び、高校生活について直接話を聞いた。 ・地域学校協働活動推進員と協力して、「小鮎中アートギャラリー」を開催した。地域の方に、絵画や彫刻、写真や書道などの作品を募集し、中学校に展示された作品を見た生徒が感想を書いて出品者の方にお返しをする取り組みで、双方にとって有意義な形となることを目指した。 ・地域において、小学校の運動会や公民館まつりの手伝い、小鮎川の美化活動の手伝いなど、中学生が様々な体験ができるように地域と協力して取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校だけですべてを計画するのは難しかったが、地域学校協働活動推進員が高校生の人選から事前の打合せに至るまで、中学校と高校生の橋渡し役となって連絡調整等をしていただき、当日も円滑に行うことができた。高校生の話を聞いた中学生からは、進路決定までの流れや、高校生活の様子がよくわかったとの感想が多くあり、とても高評価であった。 ・小鮎中アートギャラリーでは、芸術的価値のある作品に普段なかなか触れる機会がない生徒たちにとって、とてもよい刺激となり、作品に対する感想も多くの生徒が記入し、出品された方にとっても高評価だった。 ・地域にとって中学生のボランティアは引く手あまたな状況であるため、地域の活動の様子がわかるPR動画を流したり、ボランティア募集のチラシを生徒に配布したりするなど、少しでも中学生が地域に貢献できるようにアナウンスすることができた。課題としては、参加人数が多くはない点である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小鮎中アートギャラリーは、2年目ということで、今年度は小学生や地域への公開なども行った。来年度も引き続き、実施できるように検討していく。 ・地域のボランティア活動に中学生が積極的に参加していくためには、それぞれの活動がどのような活動なのかがイメージできることや、その活動に魅力を感じるなどが必要になってくる。そのため、中学生にどのようにアナウンスしていくかについて事前に地域の方と協議をし、進めていきたい。
---	--	---	---

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の学校評価を受け、学校の取組について理解していただけた。 ・学校の負担を軽減して実施できるように、豊富な地域人材を活用し、学校と地域が連携した学校づくりを推進していく。 ・CPTAとして学校と連携し、生徒・職員・保護者が三位一体となってともに学校づくりを進めていく。 ・学校関係者評価委員会の取組を発信できるようにしていく。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の結果から、どの項目もおおむね評価できるとの回答があったことに加え、昨年度の結果と比較しても後退した項目はなかったことから、一定の評価を得たと判断できる。 ・学校教育目標について、「生徒が自分の力で考え、物事を適切に判断する力」や、「表現する力」をさらに伸ばしたいとの観点から、学校教育目標を、「自ら考え、判断し、適切に表現できる力を伸ばす」に設定し、教育活動をさらに充実させていく。 ・小中連携の強化や地域学校協働活動の拡充を重点の一つとし、さらなる教育活動の充実を努めたい。
--